

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立 児玉白楊高等学校)

n19

目指す学校像	地域の未来を担う心豊かな産業人の育成
--------	--------------------

重点目標	1 基礎学力の定着・向上 2 地域に根ざす開かれた学校づくりの推進 3 進路希望の実現と資格取得の推進 4 基本的生活習慣の確立と特別活動の充実
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	「なすことによって学ぶ」の校訓が、学校生活に活力を与え、人間力の形成と向上につながっている。「チャイム・トウ・チャイム」「校内漢字大会」「朝学習」の学校全体の取組が定着しつつある。これらの取組を推進し、自ら意欲的に学習に取り組み、学習規律を守った姿勢を養成する。 生徒の実態に合わせ、基礎的な知識・技能の習得を大切にしたり分かりやすい授業を実施する。授業の一層の工夫・改善に努め、生徒の基礎学力向上を図る必要がある。	(1)授業の改善	①チャイム・トウ・チャイム指導を継続して実施する。 ②生徒の学習意欲向上や授業の理解が深まるよう、生徒が主体的に取り組む授業の工夫を行う。	①教職員・生徒アンケートにより、実施率90%以上できたか。 ②生徒アンケートにより、授業に対する評価が向上したか。成績不振者数を昨年度比10%減少させたか。	指導方法を工夫改善するなど授業改善が進んでいる。 ①アンケート結果により、チャイムトウチャイム指導実施率は目標値の88%であり、今後努力が必要である。 ②アンケート結果により、授業へのプラス評価は、5%上がり84%を達成した。成績不振者数は、前年度比117%であった。	A	更なる授業改善に努め、基礎学力向上は今後も重要な教育課題である。 ・時を守るチャイム・トウ・チャイム指導の徹底により実施率100%にする。 ・学習規律をしっかりと守らせるとともに、アクティブラーニングの視点を持ち、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実施し、生徒の学習意欲を高めていく。
		(2)学力の定着・向上	①「校内漢字大会」(5・10月)を実施し、表彰する。「漢字検定」を2月に1・2年生全員に受験させる。 ②全学年で『朝学習』(10分間)を教員2人体制で指導し、基礎学力を向上させる。第1学年で基礎力診断テスト、全学年で認定テストを実施する。 ③成績不振者に対する個別指導を一層充実させ、解消に向けた指導を保護者と共に行う。 ④朝学習教材の各級まとめで成績不振者に対して個別指導を行う。	①「校内漢字大会」の上位表彰者数及び漢字検定合格者数を評価指標とする。 ②生徒アンケートにより、昨年度より学ぶ姿勢が身に付いたか。 ③各学期における欠点の解消率は、昨年度より向上したか。 ④成績不振者に対して個別の指導を実施できたか。	①「校内漢字大会」80点以上の表彰者数、第1回109名、第2回47名を表彰した。漢字検定合格者数は、受験者数247名中、合格者57名であった。 ②定期考査に向け意欲的に取り組んでいる生徒は、前年度比112%となった。学ぶ姿勢が身に付いている。 基礎力診断テストの結果は、2月下旬に送付される。結果を基に学力の向上について検証する。 ③④成績不振者数は前年度比130%。保護者との連携強化を図り、欠点解消率は前年度比113%(1学期)、96%(2学期)となった。	A	・引き続き校内漢字大会を実施し、生徒の自己肯定感や有能感を高める。 ・引き続き朝学習にしっかりと取り組ませ、基礎学力を向上させることが必要である。 ・欠点解消に向けた組織的指導を更に充実させ、欠点の解消率を向上させる。
2	創立119年を迎え、農業と工業を併設する伝統校として、地域に貢献する教育活動を継続・発展していく。近年、本校の取組が認知されており、高い評価をいただいている。工夫を加え地域の教育活動の充実を図ることが重要である。 今後さらに地域の期待や信頼に応えるよう、本校の魅力をアピールする。 地域の中学生の急減期を迎える中、本校を志望する生徒の確保に向けた具体的な取組や戦略が必要である。	(1)生徒の豊かな心や社会性を育成	①地域交流事業(イベント等を含む)を推進するとともに、地域の清掃活動を実施する。 ②本校の魅力や特色ある教育活動、専門技術等を広く理解いただくため、小学生対象「親子でおもしろ体験講座」を開催する。 ③地域との交流事業を通して多くの生徒が地域に積極的に関わっていくよう働きかける。 ④本庄児玉郡市の中学校へ対し、本校を紹介するチラシを常設LPRを図る。 ⑤本庄児玉郡市の中学校との連携強化の一環として、HPの相互リンクを行う。	①地域交流を年5回以上実施できたか。地域の清掃活動を実施できたか。 ②「親子でおもしろ体験講座」などを6講座を開設できたか。参加者数を評価指標とする。 ③生徒アンケートにより、参加者数、取組に対する自己評価を評価指標とする。 ④⑤本庄児玉郡市の中学校に対して60%の中学校に実施できたか。	地域交流20ヶ所を行い、生徒の豊かな心や社会性を育成した。取組や成果は、地域に広く広報した。 ①児玉郡市の地域イベント3回(児玉商工まつり、かみさとふれあいまつり、神川コスミまつり)に参加し、本校の教育力を発信した。今後は地域の清掃活動を実施する。(3月14日予定) ②小学生対象「親子でおもしろ体験講座」を5講座実施。参加者は小学生、保護者59組延べ118名が受講し、大盛況であった。 ③各学科から24名の生徒が参加、高評価を付けている。 ④⑤チラシを常設し、本校HPにリンクを設置した。相互リンクを中高連絡会で趣旨を説明した。	A	本校の魅力を積極的に発信し、地域からの理解を一層深めるために、広報活動だけにとどまることなく、地域貢献の取組を継続して行っていく。 ・体験入学や学校説明会の日程を、中学校の行事等を考慮し、参加しやすくする必要がある。 ・自然のすばらしさや、科学技術のおもしろさを伝える「おもしろ体験講座」の内容をさらに充実させて、地域の小学生とその保護者の興味関心を広げ、生涯教育の充実を図る。
		(2)地域に根ざした教育活動と情報発信	①「学校だより」の発行や「地域全域への回覧板」、「HPの更新」をリアルタイムに行う。 ②本校の魅力や特色を中学生に伝え、生徒募集に向けた出前講座や中学校教員に対する情報提供を全教職員で実施する。 ③保護者・中学生を対象としたナイト入試相談会を実施する。	①学校だよりを15回以上発行し、地域の回覧板で配布を行えたか。HPの更新を150回以上行ったか。 ②③中学校訪問4回、体験入学2回、学校説明会2回、ナイト入試相談会2回実施したか。	地域に根ざした教育活動と情報発信に取り組むことができた。 ①学校だより14回発行(2月1日現在)、児玉町全域8800世帯全域への回覧板配布を行った。HPの更新96回(2月1日現在)、6万8千件(2月1日現在、前年比89%)のアクセスがあった。 ②全職員で3回、のべ60校の中学校を訪問、体験入学2回、学校説明会2回実施した。中学校7校の上級学校訪問を受け入れ、本校の魅力や特色について説明した。保育園・小学校・老人ホームなど、6回ふれあい体験を実施し本校の魅力を提供した。 ③ナイト入試説明会2回(1月24日、1月31日)実施、保護者・生徒合計53組(前年比170%)が参加した。大好評であった。	B	・体験入学や学校説明会の充実を図り、対象学年(中学1年～3年)に応じた進路情報を提供する。引き続き特色ある農業・工業(4学科)の魅力を更にアピールする。
3	1年次からの計画的な進路指導が高い進路実現に結びついている。地域唯一の専門高校であることを踏まえ、専門的知識・技能及び資格を身に付けさせ、産業人としての意識を喚起する。 「地域に貢献できる人材を育成する。」という方針は、地域の方々に支持されていることから、それらの取組を通じて生徒一人一人の進路実現を図る。 進路活動への意識や取組みの弱い生徒への一層の指導・支援が必要である。	(1)進路意識の向上を目指した進路指導の充実	①生徒のニーズに合わせた進路ガイダンスや講演会を充実し、的確な進路情報を提供する。 ②インターンシップ先を開拓するとともに、就職希望者によるインターンシップ及び会社見学、進学希望者による学校見学を積極的に勧める。 ③事業所との連携を強化し、生徒に合った進路先とマッチングさせる。 ④進学者に対し、進学向け講座を開講する。	①生徒アンケート結果、80%以上の生徒に、必要な進路情報が提供されたか。 ②ニーズに基づき、インターンシップ・会社見学及びオープンキャンパス・学校説明会に2・3年生が参加できたか。 ③100%就職内定率を維持できたか。進学率100%を実現できたか。 ④進学者に対し、進学向け講座を開講できたか。	学年に応じた的確な指導・支援により進路指導がより充実した。専門資格取得を推進し、将来の産業人としての心構えを徹底した。その結果、専攻就職内定率76名100%、公務員3名合格、大学9名・専門学校29名合格、進学率100%を達成した。 ①外部講師による進路ガイダンスを実施した。北部地区合同面接会に参加し最新の進路情報を提供した。 ②インターンシップは、生徒79名41社にて実施した。新規事業として校外バス見学を行い、1・2年生は、大学専門学校で進路説明を受けた。 ③企業と生徒のマッチングを徹底し、就職内定率100%を維持し、10年連続を達成した。	A	目指す学校像である「地域の未来を担う心豊かな産業人の育成」を目指すことが重要である。 ・生徒一人一人のニーズに合った進路情報を提供していくことが必要である。 ・引き続きインターンシップの新規事業所開拓が必要である。 ・資格取得のために、教科との連携を密にし、補習指導を更に充実させるとともに、より高度な資格取得を目指す必要がある。 ・専門性を活かすことができる就職先の提供が必要である。
		(2)進路実現を目指した資格試験取得の推進	専門性の高い難関資格試験取得に向けた指導の充実を図る。また、普通教科(基礎学力)に関する資格取得を奨励し、卒業までに高校生専門資格等取得表彰を目指す。	①資格取得の受験率及び合格率が全ての学科で向上したか。普通教科(基礎学力)に関する資格取得を奨励できたか。 ②高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)が、生徒数(3年生)の10%に達したか。 ③ジュニアマイスター顕彰及び777マイスター顕彰が生徒数(3年生)の3%に達したか。	受験者が増加するなど資格試験取得を推進した。 ①資格取得の受験者数は増加した。合格者は556名→444名と減少し、合格率は58%から48%に減少した。 漢字検定は1・2年生全員が受験している(受験者内訳:2級3名、準2級8名、3級32名、4級128名、5級97名) ②高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)は、昨年度52名が27名と前年度比52%となった。3年生生徒数の21%に達している。 ③ジュニアマイスター顕彰者(H28年度5名→H29年度3名→H30年度2名)777マイスター顕彰者(H28年度0名→H29年度1名→H30年度1名)	A	
4	基本的生活習慣は改善されてきている。ただ、挨拶や整容指導では改善すべき課題もあり、引き続き基本的生活習慣の確立に向け、組織的に取り組む必要がある。 学校行事等の特別活動において、生徒に主体的に取り組ませ、引き続き生徒の学校満足度を高めていく必要がある。	(1)きめ細やかな生活指導の継続	①『朝学習』と連動させた全校挙げた遅刻指導に取り組む。 ②遅刻ゼロ、挨拶の励行、整容指導の重点指導期間として、校門に職員が立ち、あいさつ運動をおこなう。 ③保護者連携のもと、挨拶の励行や整容指導を行う。 ④多様な生徒の心のサインを読み取り、問題行動を防止する。	①②遅刻者数を昨年度比1割減少させたか。 ③④自主的に挨拶する生徒が増加したか。服装・頭髪での指導を受ける生徒が減少したか。 ④問題行動件数を昨年度比2割減少させたか。	保護者と学校が両輪となった生活指導が成果を上げた。基本的生活習慣の確立と共に、授業にしっかりと取り組ませ、学校生活で充実感を持てるよう指導し、遅刻者や問題行動を減少させた。 ①遅刻者数はH27に6割減、H28に5割減、H29は2割減、H302割増となった。 ②毎朝、登校指導により挨拶、声掛けを行っている。各学期の服装頭髪検査で指導を受けた生徒も減少傾向にある。 ③問題行動件数は2件増の前年度比125%となった。手厚いきめ細かな指導を継続し、落ち着いている。	A	「朝学習」と連動した全校挙げた遅刻指導を継続し、基本的生活習慣を確立し、授業や学校生活にしっかりと取り組ませることが重要である。 ・引き続き遅刻指導を徹底する。 ・大きな声での挨拶指導を一層充実させる必要がある。また頭髪服装指導も継続して徹底する。 ・生徒の学校満足度を向上させ、問題行動や中途退学者を減少させる必要がある。
		(2)特別活動のさらなる活性化	①生徒会を中心に、学校行事の内容充実を図る。 ②地元中学校と連携を図る。	①生徒アンケートにより、学校行事に対する評価が向上したか。 ②地元中学校と連携を図ることができたか。	①行事内容の見直しに取り組み、改善を図るなど前進している。学校行事に対する生徒の評価は、前年度比104%となった。特に文化祭の来場者数においては、前年度比221%となった。 ②児玉中学校と連携組織を立ち上げ、2月15日に第1回の会議を実施する。	A	

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成31年2月13日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上は大切なことだと思います。漢字大会や漢字検定、朝学習の取組は、生徒たちにとって励みになっていると思います。 ・「なすことによって学ぶ」校訓は、白楊高校の大きな特色です。本校の生徒(児玉中)も知っている生徒がいます。 ・アクティブラーニングや言語活動を授業に積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を高める取組を増やしてください。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信が成果につながっていると思います。ナイト入試相談会は、生徒、保護者にとって参加しやすかったと思います。 ・年々、白楊高校の評判が上がってきている。子供を入学させるのであれば白楊高校と言う保護者もいる。今後も、情報発信を継続して行ってください。 ・白楊高校でどのような資格が取得できるか、中学校に通学する各家庭に案内することはできないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業と生徒のマッチングを徹底し、就職内定100%、10年連続は、素晴らしいと思います。「地域の未来を担う心豊かな産業人の育成」をさらに進めていただければと思います。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上と基本的生活習慣の確立は、つながっていると思います。どちらも粘り強く指導していくことが大切に思います。 ・基本的な礼儀作法を身に付けさせてほしい。 ・部活動をさらに活性化してほしい。 	